

汐留駅関連略年表

明治 5年 (1872)	9月12日 (新暦10月14日)、新橋・横浜間鉄道開業。
明治 6年 (1873)	9月15日、新橋・横浜間で貨物運輸開始。三井組が鉄道荷物取扱を行う。
明治 8年 (1875)	鉄道寮が鉄道貨物取扱を一般に開放、内国通運ほか12名の出願を許可。
明治18年～20年代	貨物ゾーンが汐留川沿いに移り、開業当初に荷物積所、荷物庫などがあった場所に (日本鉄道) 品川線 (山手線) 旅客ホームが建設される。
明治22年 (1889)	7月1日、東海道線新橋・神戸間全通。
明治42年 (1909)	12月16日、現在の新橋・上野間 (高架線) 開通、新橋駅西側に烏森駅新設。
大正 3年 (1914)	12月20日、新橋駅が汐留駅に、烏森駅が新橋駅に改称。東京駅開業。
大正 5年 (1916)	5月1日、22日間にわたり、構内配線の大規模な改修を行い、旧東海道線ホームを貨物積卸場に変更。汐留川および運河沿いに積卸線が新設。
	9月30日、水害・暴風のため構内施設が破損・浸水し、大きな損害を被る。
大正12年 (1923)	9月1日、関東大震災による火災が構内に延焼、汐留駅駅舎焼失。
大正15年 (1926)	6月9日、鉄道省、小運送合同に関する声明を発表。
昭和 2年 (1927)	2月1日、汐留駅の公認運送店組合員の作業会社が汐留駅運送(株)と改称。
昭和 3年 (1928)	3月29日、内国通運(株)・国際運送(株)・明治運送(株)の合併により国際通運(株)が発足。
昭和 5年 (1930)	8月1日、汐留・芝浦間貨物線開通。芝浦駅開業。
昭和 6年 (1931)	4月10日、汐留駅運送(株)、東京合同運送(株)と改称し、8月に東京市内各駅の小運送合同会社7社を合併。
昭和10年 (1935)	2月、汐留駅構内から築地市場へ貨物線を開設、東京市場駅開業。
昭和12年 (1937)	3月、汐留駅の大改良工事完成 (昭和9年2月着手、貨物取扱規模200万トン)。
	10月1日、日本通運株式会社法に基づき日本通運(株)発足。
昭和20年 (1945)	3月10日、東京大空襲で汐留駅も被害を受ける。9月2日、降伏文書調印。
昭和25年 (1950)	2月1日、通運事業法施行。通運事業者は免許・複数制となる。
昭和31年 (1956)	11月、予算9,600万円を投じての改良工事竣工。河岸上家、10基の転車台を撤去、貨物積卸場と通路の大半合計18,334㎡がコンクリート舗装となる。
昭和34年 (1959)	11月5日、汐留・梅田間に初のコンテナ専用特急「たから」号の運転開始。
昭和36年 (1961)	8月、汐留用品庫移転。
昭和37年 (1962)	56億円を投じ改良工事開始。7～9月、芝浦1～3番線設置。
昭和38年 (1963)	11月、混載2号ホーム新設。翌年4月、混載1号ホーム新設。
昭和39年 (1964)	10月、先進的な設備をもつ手小荷物センターを設置、運用開始。
昭和40年 (1965)	新混載制度が発足、従来の小口混載貨物のトラックへの移行が進む。
昭和42年 (1967)	4号ホームを撤去、中5・6番線を建設、コンテナ荷役線とした。
昭和43年 (1968)	3月31日、汐留駅に初の荷物自動仕分装置を設置。
昭和44年 (1969)	4月25日、フレートライナー、汐留・梅田間運行開始 (以後全国に広がる)。
	5月26日、東名高速道路全通。
昭和46年 (1971) 度中	10号ホーム跡地にコンテナホーム設置 (昭和46年 [1971] 10月着手)。
昭和48年 (1973)	10月1日、東京貨物ターミナル駅開業 (昭和54年全面開業)。
	この年以後、汐留駅の取扱量が激減する。
昭和50年 (1975)	11月～12月、公労協がスト権スト。192時間に及ぶ国鉄最大のストとなる。
昭和61年 (1986)	11月1日、汐留駅廃止。翌年4月、日本貨物鉄道(株) (JR貨物) 発足。